

第 28 回 砥川流域協議会 議事録

- 1 日時 平成 29 年 2 月 22 日（水） 午後 6 時 00 分～午後 7 時 45 分
2 場所 下諏訪町総合文化センター 2 階集会室
3 出席者 会員 12 名（途中退席 1 名）
関係行政機関（諏訪建設事務所、諏訪地方事務所、下諏訪町）

1 主な事項等

- ① 「砥川流域協議会会則」第 5 条・第 9 条に基づき、座長として五味春人さんが再選されました。
- ② 「流域協議会会則」第 5 条により、座長代理に宮坂正彦さんが指名されました。
- ③ 建設事務所より、河川改修の全体計画、平成 27 年度までの整備状況及び平成 28 年度実施事業（富士見橋架替、水位監視モニター設置、河床整理、砂防堰堤土砂掘削、河川改修、地下水位観測等）について報告がありました。
- ④ 医王渡橋下流に設置した水位監視モニターの性能、情報発信方法について建設事務所より説明がありました。
- ⑤ 雨量と流量の関係について、出水時の観測結果を用いた相関関係について建設事務所より報告がありました。
- ⑥ 砥川流域における間伐の状況、樹齢別の面積割合について地方事務所から報告がありました。
- ⑦ 今後の議題等については座長、座長代理、事務局で協議して決定することになりました。

2 討議

開会

所長挨拶

会員数報告

自己紹介

議事

- (1) 座長改選
- (2) 砥川の河川改修の実施状況について事務局より説明（配布資料とパワーポイント利用）
- (3) 雨量流量観測について事務局より説明（配布資料とパワーポイント利用）
- (4) 上流域の森林整備事業について地方事務所林務課より説明（配布資料）

質疑応答、討議の概要は下記のとおり

【質疑応答】

会 員)

護岸工の施工により地下水位の変化があったのか？

事務局)

護岸工の施工前から現在まで3箇所(赤砂公会場前、東赤砂、砥川西公園)で地下水位を観測しています。東赤砂の観測孔では従前は自噴していました。隣接部の施工後自噴が無くなりましたが、その後の地下水位は安定しています。

その他の観測孔においても、隣接部の施工時に伴い一旦地下水位が下がりましたが、その後回復し安定しています。

会 員)

木落坂(落合砂防堰堤)の土砂2000m³の撤去にかかった費用はどのくらいか?

事務局)

土砂撤去の費用については他箇所の撤去と併せて実施していますが、内訳の資料を持っていないので、この場ではお答えできません。

掘削土砂をどこに運ぶかによって費用が大きく変わります。

諏訪湖に遠浅のなごさを造成していますが、今回の土砂は主にその造成に使用しています。

会 員)

落合砂防堰堤で土砂をとれば下流側が助かる。定期的にやれば良いのではないか。

事務局)

土砂の利用先や砂防堰堤の状況も見ながら考えていきたい。

会 員)

富士見橋の上流部の床固めの目的は?提言には無かったと思うが?

事務局)

調べます。(河川改修協議会(案)中に巨石で落差工を設置するとの提案があります)

会 員)

浚渫した2箇所の地点選定は良いと思うが、掘削に伴う土砂流下により諏訪湖に負担がかかる。水を切り回してから実施すれば施工時の下流への土砂流下が抑えられるので配慮してもらいたい。

会 員)

町役場のホームページとはリンクしていないのか?

事務局)

先程紹介したのは県のホームページですが、町のホームページとリンクするよう調整しています。

下諏訪町)

町としてもホームページで独自に防災情報を提供していますが、現時点では監視モニターの情報と町のホームページとは直接はリンクしていません。町の防災情報と併せて見ることが出来るようにします。

会 員)

諏訪市のホームページでは宮川かどこかの川の情報が見られたのでそのようになればいいと思う。

会 員)

NHKで50年先には諏訪湖は沼になるとの報道を見た。砥川だけではなくいろいろな河川から土砂が流入するということであるが、砥川は少し雨が降ると赤砂崎に土砂がたまる状況です。

5000m³ 土砂をとったと言うことだか、長期的に見たときには諏訪湖との関係では毎年どのくらい土砂をとればよいのか？

また、インターネットの水位モニターの情報が 10 分更新とのことであるが、水位が急に上がったたりすることも考えると更新時間はこれでよいのか。

事務局)

まず 10 分更新について、配信側の機械の容量、受け手側の機械の性能の問題等がある。

今考えられている洪水は長雨を対象としています。10 分更新で良いのかは今後の課題と受け止めていますが、まずは情報を見て頂きたい。

1 点目については、センチ単位で諏訪湖が埋まっているとの話もあるが、18 災以来、多数の砂防堰堤を整備し、土砂の供給が足りない所あり、一概に議論はできない。

砥川については河口部において漁協の要望もあり毎年土砂をとっている。

会 員)

諏訪湖が埋まるのは宿命である。

降雨と水位の関係が大事。この関係を住民が十分頭に入れて、行政に頼るのでは無く住民が一番知っていなければならない。責任と自覚をもってもらいたい。

会 員)

間伐は進んでいると思っているが、一方で植林の問題があると思う。行政として山林所有者に対して補助、協力しないと、50 年生以上の木がほとんどで今からでも手を打たないと間に合わないのではないのか。

林務課としても何か施策があるのか。

林務課)

その通りで、国、県も取り組んでいる。苗木に補助をしているが、木材が販売価格が安いので植えて育てるまで行かない。そこをバックアップしたい。

九州では既に問題化しているところもある。補助金の増額、低コストで木材を搬出する方法、植林する方法を研究している。

座 長)

残りの時間、治水、治山でも全体のことに加え、今後の流域協議会をどのように運営していったら良いか等の意見も出して議論する時間にしたい。

会 員)

これから改修に入る宮田汐の取水口は J R 橋下流部にある取水口のようになるのか。

事務局)

宮田汐は 4 つの用水を統廃合して現在の位置に取水口をつくる計画です。

基本的な構造は J R 橋下流部にある取水口（上赤砂汐）と同じく作業台のある水門として計画しています。

施工の細部については用水管理者、水利権者と十分打合せをして実施します。

会 員)

砥川は急流で取水に苦勞する。少しでも水位が下がると取水できない。

また、管理者が責任をもって管理しなければならないがこれがなかなか難しい。

斬新的な方法で砂を取り込まず、水をとる方法があればいいが、一度大水がでると取水口が埋まってしまったり、水路に土砂を取り込んでしまう。取水技術を研究してもらいたい。

管理の問題ではあるが、大水が出たときに水門が開けっ放しとなっていることが良くあつ

た。造ったはいいが、管理が悪いととんでもないことになる。

座長)

座長が勝手に話すことをお許し下さい。

今日、監視カメラの話がありましたが、設置されたことはとても良かったと思っている。

今後どのように活用していくかという課題もあるが、10数年前にカメラ設置を発言された方はホームページで見るということは想像も出来なかったと思う。

カメラを設置し、観測してデータを積み重ねようと提案したのは小沢さんという会員の方です。

その方の発言をコピーしてきましたので参考に読んで下さい。このような意見の延長でカメラが設置され、活用されていくことになったわけです。

残念ながら、最近急病で亡くなりました。

事務局)

10分更新の配信とはいえ皆さんにみていただくのは大きな成果と考えます。

今ほどの技術は発達していなかった18年の時の話ですが、伊那のケーブルテレビが河川の映像を映したとたん周辺の住民の皆さんが避難所に避難した。一番大切なことは避難して頂くこと。そのために活用していただきたい。

会員)

資料2の雨量と流量のデータは、H18の豪雨災害のデータがはいっているのか？

事務局)

H18の豪雨は2つのピークがある降雨パターンであった。雨量は観測しているがピーク時の雨では無いので今後しっかりとした解析が必要と考えている。

会員)

雨量のことを話したが、体験として砥川では上流に降った雨が1時間で下流に到達する。これが恐ろしい。砥川は勾配が急で、雨量と出水の時間が早いという特徴がある。良く研究した方がよい。

事務局)

砥川は流域面積が小さい河川であるので、時間雨量の影響を受ける河川であることは認識しています、

会員)

映像を見ることによって恐怖心をもって避難をするということは、カメラの設置は意義があることだと思う。

下屋敷の住民から、大きな石が流れる、それは恐ろしいという話も聞くが、水に親しむ、川に親しむと言うことが望まれている中、川が怖いとの認識をもたれるのはよくないので、安心のもてる河川の対策をとってもらいたい。

会員)

諏訪湖に土砂が流れ込むのは大きな影響を与えている。長い先を考えて河川の土砂をとると言うことも考えてもらいたい。

会員)

赤砂の町民が心配していたが、早く安心ができるよう進めてもらいたい。町内会としても協力できることはしていきたい。

事務局)

皆さんに諏訪湖の心配いただいておりますが、少なくとも 50 年 60 年のスパンで諏訪湖が無くなってしまおうとは考えていません。

諏訪湖については環境改善に向け、現在諏訪湖創世ビジョンをつくっているところであり、策定にあたり情報発信していきます。ご意見をいただく場もつくるので議論をお願いしたい。
座 長)

以前も議論があったが、一定の期間でどれほどの土砂がでるのか計れるのか。
事務局)

よく質問されることですが、土砂がでるのは大雨が降った時です。この大雨による出水は年によって変わります。したがって貯まった土砂から推定するしか無い状況です。

土砂がでる箇所については砂防堰堤を設置し、土砂の流出が抑制されている部分もあります。土砂供給の足らないところもありバランスを考える必要があります。

諏訪湖の浄化にも興味があると思いますが、一番の流域面積を持つのが上川であり上川の河口には沈澱ピットをつくって土砂を捕捉する形になっています。

諏訪湖へ入る窒素、リンを除去することが目的ではあるが、それを使い土砂供給量を予測、管理していくが数字的には長いスパンで見なければならぬと考えている。

座 長)

何もしなくていいと言うことでは無いと思うが。

事務局)

土砂対策は上流における砂防で対応し、流下した土砂については河口での浚渫で対応するのが現段階ではベストと考えています。

座 長)

河川としては量的に管理しているのか？

事務局)

河川の流下に影響がないよう、また環境、漁業的な面を考慮しながら対応している。

会 員)

水位と流量の関係の説明の中で去年のデータを見ると、水位が曲線の上側にプロットされ、河床が上がったか流下断面が小さくなったということであるが、河川改修が終わればこのようなことはなくなるのか。

また、これはどこの位置でのデータか？

事務局)

測定箇所は医王渡橋下です。

H28 のデータは説明のとおりですが、流量を測定したのは 9 月であることから、8 月 5 日の出水により河川断面が変化（河川の埋塞が進んだ）し、この影響を受けているものと思います。

会 員)

今後の工事の範囲の中で支障となるようなことはあるのでしょうか。これまで取水の問題等で工事が出来なかったところもあったので伺います。

事務局)

最下流の部分で用水の問題がありましたが、調整が整いました。

JR 橋から下流部については護岸の老朽化のための積み替えが主なものとなり、特に支障はありません。

富士見橋から上流については、幾つかの取水、排水がありますので、実施時には十分調整を図りながら進めていきます。

会 員)

砥川上流の砂防堰堤の計画はありますか？

事務局)

具体的な計画はありません。

会 員)

今後も無いのですか？

事務局)

砂防事業としては土砂法の特別警戒区域を優先的に整備しているところです。

会 員)

砥川流域協議会が存続するのであれば、堰堤の計画については協議会にも報告願いたい。

事務局)

脱ダム以来、堰堤の適地を探した経過もあるが、本川における堰堤の設置は難しく、床固めなどを整備してきました。

座 長)

色々議論があると思いますが、これからこの会をどうするか意見をもらいたい。

座 長)

具体的に無ければ、座長、座長代理、事務局で相談して決めたい。

これで閉会とします。

以 上